

委託事業実施内容報告書

第四次募集

平成20年度地域日本語教育支援事業【日本語教室設置運営】

受託団体名 (有)大泉日伯センター (日伯学園)

1 事業の趣旨・目的

この日本語教室では、日本の大学に進学したバイリンガルの日系人青年を主な講師に、また、ブラジル人学校全日制で学びつつ日本語習得をめざして一定の成果を収めている日系人青年を講師補助として、日本語入門あるいは初級レベル者への日本語教授を行うことを目的とする。

この取組は、教育するもの、されるもの双方に大きな意義をもつ。特に、ブラジル人学校全日制で学んだ青年は、現在もポルトガル語を第一言語としながら、よりレベルの高い日本語習得を目指す「学習者」でもある。彼らが「学習者」としての立場を超え、この教室で「講師」となって日本語初級を教えることにより、自身の日本語の基礎をより確実なものにすることができる。また、この教室の受講対象者である小学生年齢相当の日本語初級学習者にもより身近な存在であり、彼らを具体的な「モデル」として学習に取り組むことができるのである。日本語学習を早期に始めることは、日本への定住傾向や国境間を複数回移動する在日ブラジル人の生活パターンと照らし合わせると、ぜひとも取り組むべき課題である。特に、漢字検定への挑戦を教室の課題としたい。漢字の習得は、日本の文化を理解する一助となるからである。ちなみに、当学園は漢字検定試験の準会場の資格を取得しているため、受験者の交通費などの負担はほとんどない。

さらに、昨年まで行ってきた日本の大学への進学者という講師の枠を広げることで、今後も続くであろう、地域のブラジル人居住者の日本語学習需要に対応できる日系人教育者の層を拡大することも事業の狙いの一つである。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
1月19日	戸澤、中西、堀江、阿部、エイジョ、水野、蓮見、佐藤	補助者としての悩み疑問	担当クラスの進行報告 担当して困った事などを報告し、改善策を考え指導する
2月18日	戸澤、中西、堀江、阿部、藤、安里、江上、熊谷	補助者として参加した感想 反省会	担当クラスの報告 次回に向けての課題、反省

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 ブラジル人の先輩から学ぶ「初めての日本語」
- ② 開催場所 日伯学園（邑楽校舎）
- ③ 学習目標

当学園と関係の深いNPO大泉国際教育技術普及センター（群馬県邑楽郡大泉町）では、2004年度、2005年度は文化庁より委託を受け「親子日本語教室」を開講し、2006年度も文化庁より委託を受け「集住地域の特性を生かした日本語講座（「目指せ、日本の高校・大学への進学！ -先輩＝モデルとしてのバイリンガル講師を活かした協調学習と夢の実現-」）を開講してきた。その受講生には当学園就学者も多い。また、この一連の日本語教室受講の成果として、日本語能力試験4, 3, 2級に合格した就学者もいる。

今回の日本語教室では、当初の目的通り、上述した日本語能力試験合格者を講師補助として据え、講師の指導のもと、初習者（主に年少者）に日本語を教えさせた。学習動機を持続させるため、2009年1月に実施された漢字検定（10級から7級）の合格を目指して学習に取り組んだ。

クラス編成は、以下に箇条書きする。

- * 初級コース(一般)・・・日本人・ポルトガル語話者の講師及び日本人高校生による日本語の初歩。簡単な漢字等を学習。
- * 初級コース(学生 10～15才程度)・・・ポルトガル語話者の学生が受け持つ「ひらがな」「カタカナ」中心の授業。
- * 中級コース1(学生・一般)・・・日本人・ポルトガル語話者の講師による漢字検定十級のための試験勉強。
- * 中級コース2(学生・一般)・・・日本人・ポルトガル語話者の講師による漢字検定八級の試験勉強。

- ④ 使用した教材・リソース

主教材 子供初級： 入学前のひらがな・カタカナ くもん
 漢字習熟プリント 清風堂書店

副教材 子供初級： ひらがな・カタカナプリント 手作り(各教材 B4 6枚)

⑤ 受講者の募集方法

初回より継続している受講者より引続き受講しいという希望があり、特に募集していない。

⑥ 受講者の総数 3194 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 60時間 (全 60回)

日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
1	1月28日	1時間	80人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者7人	漢字検定、平仮名、かな学習
2	1月30日	1時間	81人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者7人	漢字検定、平仮名、かな学習
3	2月2日	1時間	81人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者5人 補助者7人	漢字検定、平仮名、かな学習
4	2月4日	1時間	81人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者5人 補助者5人	漢字検定、平仮名、かな学習
5	2月6日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者5人 補助者7人	漢字検定、平仮名、かな学習
6	2月9日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者10人	漢字検定、平仮名、かな学習
7	2月13日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者5人 補助者9人	漢字検定、平仮名、かな学習
8	2月16日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者4人 補助者5人	漢字検定、平仮名、かな学習
9	2月18日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者10人	漢字検定、平仮名、かな学習
10	2月20日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者9人	漢字検定、平仮名、かな学習
11	2月23日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者4人 補助者6人	漢字検定、平仮名、かな学習
12	2月25日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者4人 補助者9人	漢字検定、平仮名、かな学習
13	2月27日	1時間	82人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者10人	漢字検定、平仮名、かな学習
14	3月2日	1時間	85人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者4人 補助者3人	漢字検定、平仮名、かな学習
15	3月4日	1時間	85人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授5人 補助者10人	漢字検定、平仮名、かな学習
16	3月6日	1時間	85人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者6人 補助者9人	漢字検定、平仮名、かな学習
17	3月9日	1時間	85人	日系ブラジル人 ポルトガル語	教授者4人	漢字検定、平仮

				ルトガル語	補助者 3人	名、かな学習
18	3月11日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 5人 補助者 9人	漢字検定、平仮名、かな学習
19	3月13日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 6人 補助者 10人	漢字検定、平仮名、かな学習
20	3月16日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 4人 補助者 9人	漢字検定、平仮名、かな学習
21	3月18日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 5人 補助者 9人	漢字検定、平仮名、かな学習
22	3月23日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 6人 補助者 10人	漢字検定、平仮名、かな学習
23	3月25日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 4人 補助者 9人	漢字検定、平仮名、かな学習
24	3月27日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 5人 補助者 10人	漢字検定、平仮名、かな学習
25	3月30日	1時間	85人	日系ブラジル人ポルトガル語	教授者 5人 補助者 10人	漢字検定、平仮名、かな学習

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



- * 前回から補助者を担当していた生徒達をリーダーとする。
- * 受講者が増えたことと、レベルの幅が広がった為(低学年)、補助者のタイプを見極めグループ別に分ける



4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

今回の日本語教室の目的は、上述した日本語能力試験合格者を講師補助として据え、日本語初習者(主に年少者)に日本語を教えることで、前者は教授者としての必然性から、日本語学習意欲を更に高めることとなり、後者については身近な「先輩」から日本語を教えてもらうことで、日本語習得可能性を実感しつつ学べるという相乗効果を発揮した。また、単なる「やる気の持続」で終わらせないために、2009年1月に実施された漢字検定(10級から7級)の合格を目指して学習に取り組んだ。

② 学習者の習得状況

日本語初習者(主に年少者)に日本語を教えることで、前者は教授者としての必然性から、日本語学習意欲を更に高めることとなり、後者については身近な「先輩」から日本語を教えてもらうことで、日本語習得可能性を実感しつつ学べるという相乗効果を発揮した。また、単なる「やる気の持続」で終わらせないために、2009年1月に実施された漢字検定(10級から7級)の合格を目指して学習に取り組んだ。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

継続的な受講者の増加と、漢字検定の結果からいえば、受講者の多くにとって今回の日本語教室は有意義であったといえよう。また今回の試みとして、2004 年度には「初習者」として日本語教室を受講していた者を、「講師補助」という立場にしたことによって、彼らは教えることの難しさを実感し、自らの日本語のブラッシュアップの必要性を認識することとなった。一方、受講者にとっても、これまで習っていた現在日本の大学に通う日系ブラジル人青年から、講師補助がより一層身近な先輩になったことで、学習を継続する意欲が増加した。副次的効果として、学園内の世代間交流が深まることとなった。

「受講者」から「講師補助」、「講師」へという流れを作る端緒になったといえる。

さらに、今回の受講者のために、日本語教室の会場を漢字検定の準会場として申請し、受理された。これにより、受講者だけでなく、近県からも日系ブラジル人の受験者が 5 名ほど訪れ、地域の日本語教室の拠点であることが広く認知されるに至った。この波及効果を期待したい。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

この日本語教室は、これまで NPO 大泉国際教育技術普及センターが受託してきたものと比べると、学園内で完結することを懸念していた。しかしながら、経済危機によって近隣のブラジル人学校の中教育課程が閉鎖されたことで当学園への転入者が増加し、必然的に今回の日本語教室受講者も当初の見込みよりも幅広い層に提供することができた。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

受講対象者を初習者に限定したことで、きめこまやかな指導ができた。

b. 今後の課題

講師補助に体系的な教授法をみにつけさせることが課題として浮かび上がった。日本語力を発揮する場を提供することも必要と思われる。OJT ともいえる場を講師補助のためにどのように提供していくか。机上のみではなく「実践の日本語」を身につけさせる工夫をする必要がある。

c. 今後の活動予定, 展望

上記の課題を踏まえつつ、受講者から講師へという流れを途絶えさせないために、今後も同様の日本語教室を設置していきたい。

また、経済危機により、親である労働者は日本語習得の重要性を認識するようになっているため、子弟への日本語習得への期待は高まるものと思われる。持続的な日本語教室の運営を目指したい。

⑥ その他参考資料